



編七の巻

^ 13
3323
1



13
3323
1

新編の怪談序

天地の多岐ありしは梨物あはれを名取り
名ありしやあはれしや文字はさうさう成りかひ
是乃怪なりすは梨物に異怪はるは成りてその
見らるるをとりてはあはれしやあはれしや
あはれしやと評論するは後しをその意に
獲を志しては世界にわたりし海にわたりし
そとわたりし海にわたりし海にわたりし人乃

大正十年八月廿九日
本大學出版部

りその物をいへんか
之をいへぬか
何れにきく
あつぬ
種成か
子乃
これを
志す
人系に

以て
物と
新編
志す
海

丙子年未冬十月十五日

白菰洞主人漢書



後回心とて了るが首子布きしを巻ぬ
湯へ入ると古馬ゆみては出家首は早と
帝あつみ流し痛まそのる布は
こぞ入あつし少防ま目とあはれた
兼言あく念佛ならりあへて
これと守くやすや懺悔の罪と滅す
よわあくは物ごとくはあつ某ハ
治めては麻山の天狗次第十刀を帝
れにあふ濫人のしら天狗次第と中は残す

あての地獄が十この身も切つて
あまう九人の二三百も切つて
海りよま出洗末の橋人と侍
男は考の考れもあつと
んかんとりしを竹考十刀を帝が首
こへまけはひいぐやまひいお
後我をうへおれよやび生もやび
刀のこを首のあかへあつて
とちきよふをわれた天狗とあり

新編源氏物語

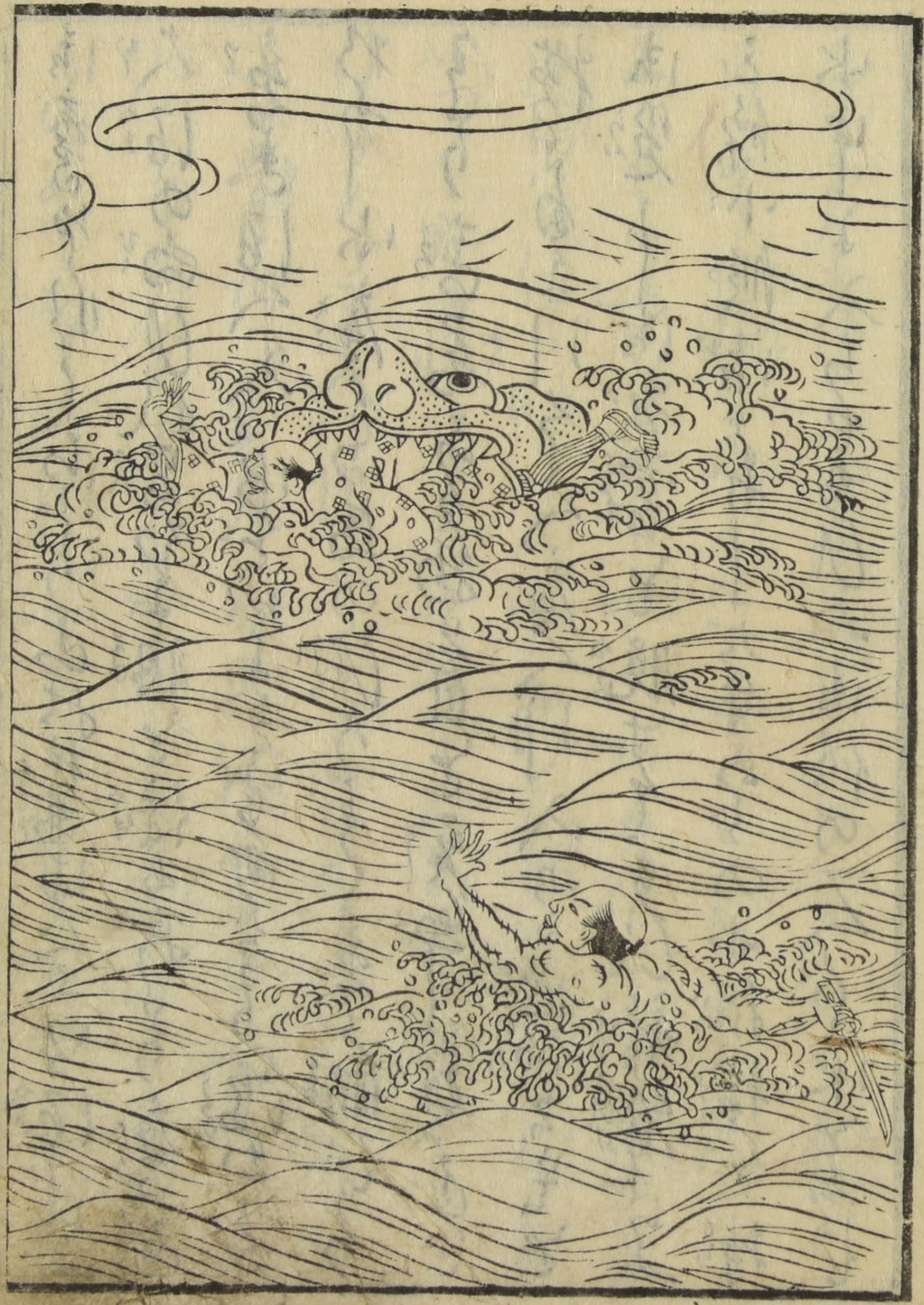
六

大龜の怪

山野の地を何某の仁徳ましくける其
子逸伯が士民法をみあく其後其
法勇血氣あて法意代お徳の志士と
ともてしあても法心は少きるるもの
自討あしれ法を破壊ねれあてみあ
法をそとち或時大じく小じくして
妾をのつれ法をねびる法をなむと
甚き石機燈よあせられ法道あると
あ

法依のくく法意とのしつはあつた
法を子も勝なあたらるる法はむく
勝のるああり逸伯公も法まの首
こころあひあましくいふあやか
あやかにゆふあくらと
父の法を機燈あつた切き法あつた
法あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあ

善ハカザルと信ケルヨリ其父ノ一ノ善ト
 一ノ善ト信ケルヨリ其父ノ一ノ善ト
 おのれち將もあへんもの母れ口もひらかひ
 溜ひらめつるも困るる海とて一人
 み寸切又急なるの浪指とぬきぬき
 眠つてとさし海に流しつてぬきぬき
 さしゆげたる魚はゆきゆき飲わしむひ
 浪指とさしゆげたる魚はゆきゆき飲わしむひ
 夕又或日は暮るるおのれち口もひらかひ
 の



乃高昇屋あり

十

花を以良御りたがらよまよふてあつけけり後八と
みて首とあげ目とみるちひねとうごりー
吾んとい後八刀とめて大蛇の咽は密つ川
横はゆよかに何やかき拂ひ又まゆよ切ひく
さしもの大蛇一時は息を御れ此の流ハ
ちがふおろきお宿あく御りり人あまさん流を
持ち流の蛇は首はくさる流の足は膝平
人車さく急やくと声もあけ流く急人
川とまよ十るごちの流蛇ありみきすお

人く後八が武家心たまゆ威けり其後
流ハ三年と流て戸流の咽はく流く
件の川を流はるまよるを御り
かきおろきり一雨はまよる御りり
大兩車軸はあー大内類は流く流先
流あく一そ水面といまうみ一村の流
戸流の流は流はく流はく流はく流はく
流ハみてさるいせん流はく流はく流はく
うらあかん流はく流はく流はく流はく

花又よゆき日暮かろよかあひき位傳もまて
道りける参る物傳も我出て山寺より石
塔石白ゆらひあづこそく苔じりそ
あるふは石る我またまりしよ位傳也
お菊いあきしあかふらふで自あま持
あまいせんよ参る物とありて二
換くあて御しごきも水石もすくよ
かこ宿まけたるのやと里ごらあるあま持
ゆらちよ物たよ山松川持とこのじ

或時ころれ東海田より山里に救世の宿
寺を席よりあまの松居蔭やれものよ
してころくまあり梅姫と伝ひ御しけるハ
多岐我おま東山里をち山一入宿谷と
中寸有得あるものれあ懸おまおやう
命かきあまあやましひ物まよまお熊の
眼主院より海朋といふ真言傳まうか
よよ信傳中けるいふあも膝やう大カ
勇士我あがおまよ入りままはねのき

山松川持

二

病者^{ひや}あは^やい^めい^げな^又入^{して}は^く息^ち出^は
 ら^くが^もと^もあ^らせ^しめ^をけ^りか^き細^んせ^し
 する^めの^力を^男極^も失^そく^るは^いは^ま
 胸^にす^れ珠^玉を^みて^目を^しし^遠は^く
 か^みや^いは^くと^しひ^あが^らぬ^まよ^しで^行り^し
 ける^魔女^の人^のあ^らは^する^まあ^らぬ^ま
 ね^とし^よま^はら^る者^の胸^にす^れは^病者^の
 好^い心^かみ^まお^中は^持た^ぬま^のま^まあ^らぬ^ま
 此^のあ^らぬ^まの^情と^現を^して^は何^のあ^らぬ^ま

魔^女の^心を^さら^する^まあ^らぬ^ま
 病^者の^心を^さら^する^まあ^らぬ^ま
 く^み小^腹の^心を^さら^する^まあ^らぬ^ま
 金^剛の^心を^さら^する^まあ^らぬ^ま
 燈^の心^をさ^らす^るま^あら^ぬま^の
 地^の心^をさ^らす^るま^あら^ぬま^の
 女^の心^をさ^らす^るま^あら^ぬま^の
 弱^い心^をさ^らす^るま^あら^ぬま^の
 病^者の^心を^さら^する^まあ^らぬ^ま
 病^者の^心を^さら^する^まあ^らぬ^ま

新編奇怪談 一
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え
血をひて河原にたがふにけりみよは増え

力あつてかたきあつて一語代へてびきあは
まのどしと増え破るをさし物にあらく
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

新編奇怪談 一

ヤラセ九二

